



はまもと つぎのり  
**濱元 二徳** さん

1936年1月22日生まれ

1970年に水俣病と認定される。

両親を水俣病で亡くし、父は解剖され、自身も車椅子でつらい毎を送る。伝染病と差別を受け漁業収入がなく苦しい生活の中で、チッソの責任を認めさせていった苦勞を語る。

1994年10月から水俣病資料館の最初の「語り部」となる。

水俣病資料館語り部の会会長。

水俣市月浦在住。

はじめまして、私は濱元二徳です。私は昔、水俣湾と不知火海で両親と3人で漁業をしていました。チッソ水俣工場の排水に含まれていたメチル水銀により、魚介類が浮上したり、死滅していきました。そのうち猫が狂死しはじめ、自宅で飼っていた猫も3匹亡くなってしまいました。私が1955年に発病し、両親が1956年にこの病気にかかりました。当時は、患者をチッソの附属病院に入院させたり、熊本大学病院で学用患者（研究用患者）として受け入れてもらっていました。そこで3人とも学用患者として熊大に入院しました。父は苦しみ暴れて狂い死にしました。原因究明のため早速解剖され、その結果脳細胞が破壊されていることがわかりました。母は全身しびれ、寝たきりの状態で亡くなっていきました・・・。

私は、この水俣病のために精神的・経済的・肉体的にぼろぼろにされ、今日まで生きてきました。

日本は高度経済成長の波にのり、発展を遂げてきました。私に言わせると、水俣病患者はこの高度経済成長の犠牲者です。

21世紀に入り、このような状態のまま豊かさを追い求めていくと、自然は破壊され、取り返しのつかないことになるのが目に見えています。私はいまに水俣病にかわる公害が発生するのではなかろうかと非常に危惧しています。

一度壊された環境を元に戻すには、長い年月と莫大なお金が必要になります。また、壊された体は二度と戻ってはきません。

私は、水俣病の教訓を発信するとともに、自然保護と人権尊重を提唱したいと考えています。

**【写真；劇症型の水俣病で亡くなられた濱元さんのお父さん】**